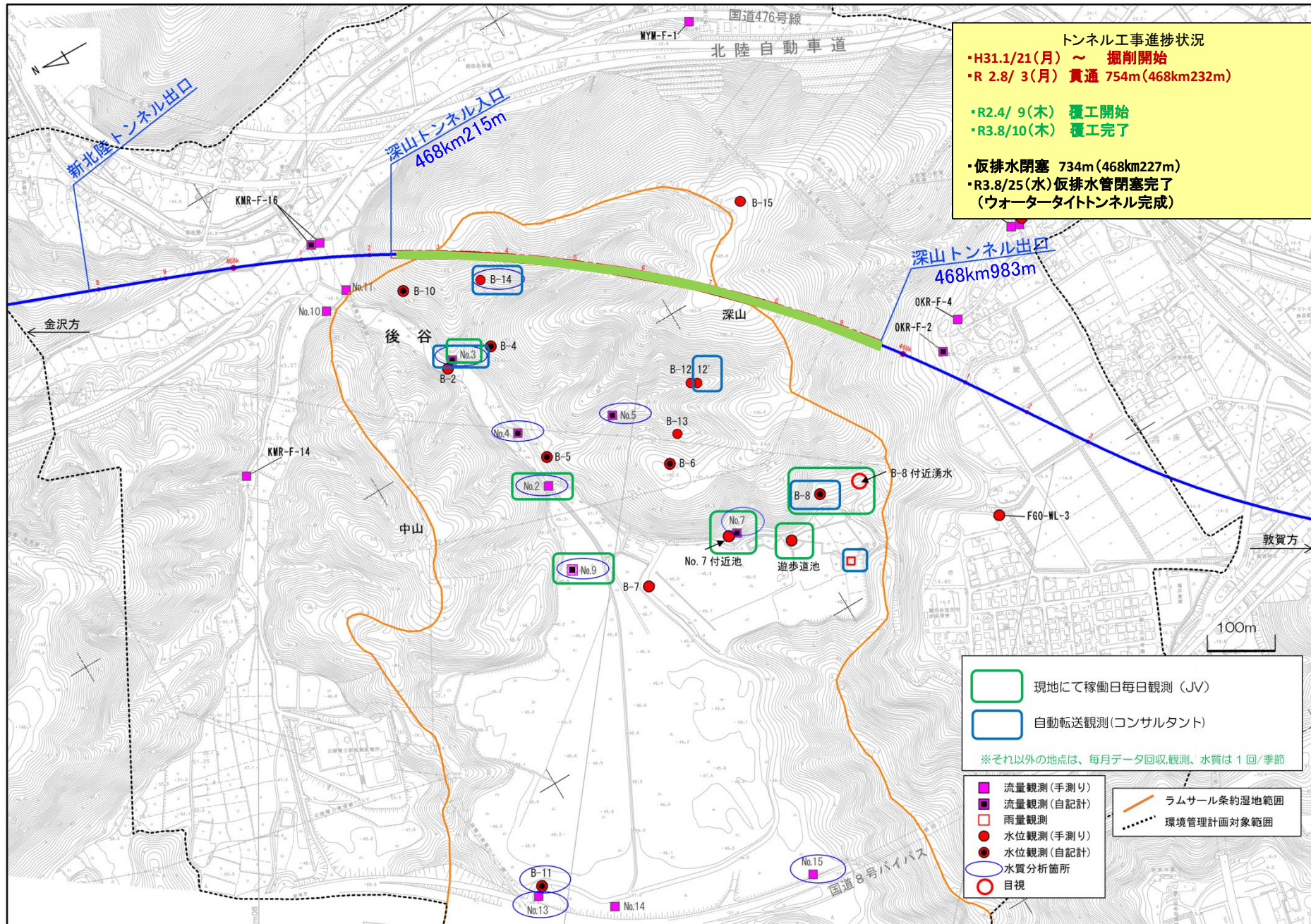


深山トンネル水文調査モニタリング報告書

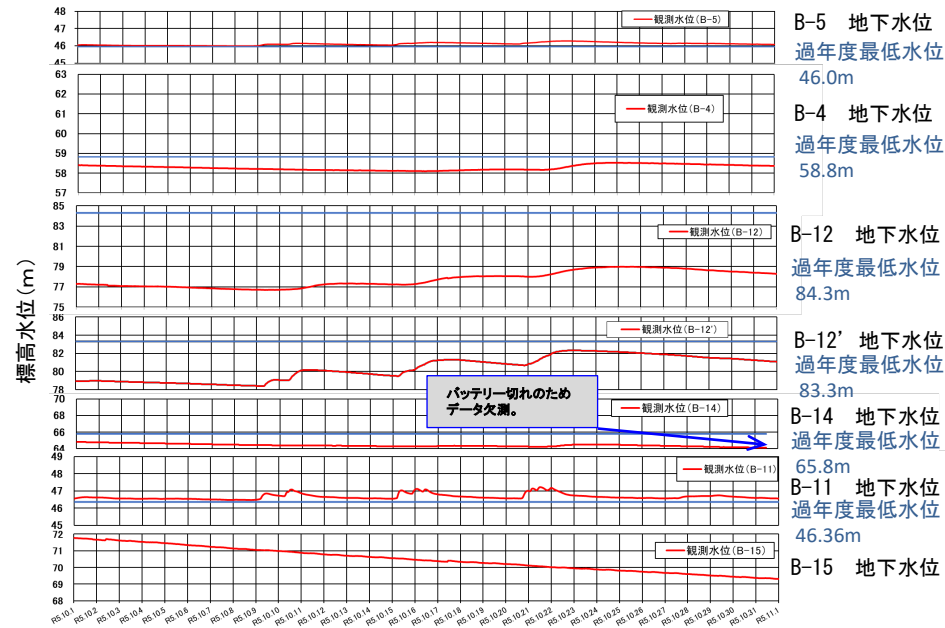
調査期間：令和5年10月1日（日）～令和5年10月31日（火）

「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。



水文環境モニタリング観測地点図

※主要箇所のみ抜粋 地下水位観測結果図(自記記録)



全体総括

- 目立った変動なし □やや変動あり
- 変動あり(注意体制への移行を検討)
- 期間中の地下水位低下量
- 1m未満ないし増加: 下記以外
- 2m未満: ■5m未満:B-15 □5m以上:
- 期間中の流量低下量
- 50ℓ/分未満ないし増加: すべて □50ℓ/分以上
- 期間中のpH変動量
- 0.5未満 □0.5以上 □1以上
- 日降水量
- 15mm未満 ■15mm以上(5日) □50mm以上
- 月降水量
- 80mm未満 □80mm以上 ■130mm以上 □200mm以上

概要

■水位変動について

- ①目立った変動なし
- ②B-4(自記水位計): 期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。過年度最低水位を下回る状態が続いている。
- ③B-5(自記水位計): 期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。水位は期間を通して概ね一定である。過年度最低水位を上回る状態が続いている。
- ④B-12(自記水位計): 期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。過年度最低水位を下回っている状態が続くため、今後とも注視していく。
- ⑤B-12'(自動転送): 期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。過年度最低水位を下回る状態が続くため、今後とも注視していく。
- ⑥B-14(自動転送): 期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。降雨量の減少により水位は低下傾向であり、過年度最低水位を下回っている状態が続くため、今後とも注視していく。10/31にバッテリー切れのためデータが欠測する。
- ⑦B-15(自記水位計): 降雨量の減少により、期間を通して水位は緩やかな減少傾向となる。

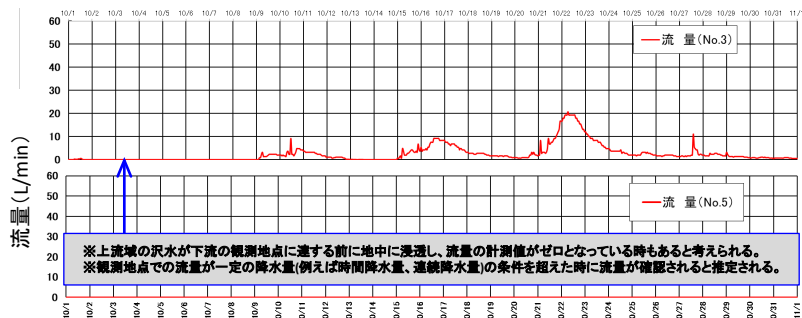
■流量変動について

- ①No.3(自動転送): 期間中の降水に明瞭な反応を示し流量は一時的に増加傾向を示す。期間を通して降雨がない時には流量がない状態が続いている。
 - ②No.5(自記): 期間中は0ℓ/minの状態が続く。
- ⇒少雨や大雨の数日後の状況として、当該上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透することにより流量の計測値がゼロとなっている状況がある。
- ⇒観測地点での流量が一定の降水量(例えば時間降水量、連続降水量)の条件を超えた時に流量が確認されると推定される。

■降水量について

- ①10月の日最大降水量: 10/15の34.0mmである。
- ⇒9月の日最大降水量: 9/8の43.0mmである。
- ②10月の降水量: 170.5mmである。
- 昨年10月は119.0mm、平年値(敦賀アメダス)は152.6mm
- ⇒9月の降水量: 159.0mmである。
- 昨年9月は129.0mm、平年値(敦賀アメダス)は204.9mm

流量観測結果図(自記記録)



No. 3 流量

No. 5 流量

降水量

